

中国



1 農・畜産業の概況

中国は、日本の25.6倍に当たる9.6億ヘクタールの国土を有しており、耕地面積は、1億2172万ヘクタール（2008年）と国土の12.7%を占め、この割合は日本とほぼ同じである。

中国の国内総生産（GDP）に占める農林水産業の割合は、全体の10.0%（2011年）と必ずしも高くないものの、就業人口では全体の34.8%（2011年）を占め、依然として中国の重要な産業となっている（表1）。

中国の農林水産業総生産額は、近年、経済成長および農産物価格の上昇により増加傾向にあり、2011年は、

前年比17.3%増の8兆1303億9000万元（130兆862億4000万円：1元=16円）となった（表2）。

農林水産業の部門別生産額割合の推移を見ると、1990年には全農林水産業生産額の6割以上を占めた農業は減少傾向にあり、2005年以降、5割前後で推移している（図1）。一方、国民所得向上による食肉消費の拡大を受けて（表3、4）、1990年には2割強であった畜産業のシェアは、近年、3割前後で推移し、拡大の傾向にある。2011年の畜産業の生産額は、同23.7%増（4945億元増）の2兆5770億7000万元（41兆2331億2000万円）となった（表2）。

表1 農林水産業の地位

（単位：億元、万人）

区分／年	2007	2008	2009	2010	2011	前年比
GDP	265,810.3	314,045.4	340,902.8	401,512.8	472,881.6	117.8%
うち農林水産業	28,627.0	33,702.0	35,226.0	40,533.6	47,486.2	117.2%
GDP比	10.8	10.7	10.3	10.1	10.0	▲0.1ポイント
就業人口	75,321	75,564	75,828	76,105	76,420	100.4%
うち農林水産業従事者数	30,731	29,923	28,890	27,931	26,594	95.2%
就業人口比	40.8	39.6	38.1	36.7	34.8	▲1.9ポイント

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

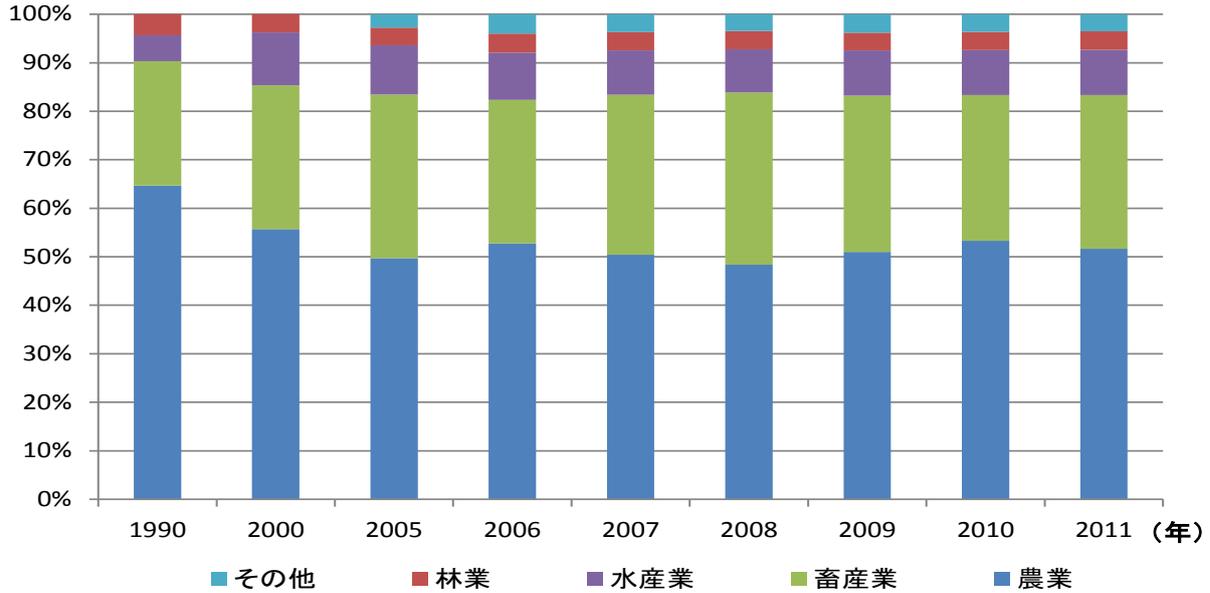
表2 農林水産業総生産額の推移

（単位：億元）

区分／年	2007	2008	2009	2010	2011	前年比
農林水産業 総生産額	48,893.0	58,002.2	60,361.0	69,319.8	81,303.9	117.3%
農業（耕種農業）	24,658.1	28,044.2	30,611.1	36,941.1	41,988.6	113.7%
林業	1,861.6	2,152.9	2,359.4	2,595.5	3,120.7	120.2%
畜産業	16,124.9	20,583.6	19,468.4	20,825.7	25,770.7	123.7%
水産業	4,457.5	5,203.4	5,626.4	6,422.4	7,568.0	117.8%
その他	1,790.9	2,018.1	2,295.7	2,535.1	2,855.9	112.7%

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図1 部門別生産額割合の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年のデータが大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

表3 一人当たり平均年間所得

(単位：元)

区分/年	2009	2010	2011
都市部	17,174.7	19,109.4	21,809.8 (348,957円)
農村部	5153.2	5919.0	6,977.3 (111,637円)

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：1元=16円

表4 一人当たり年間食肉消費量

(単位：kg/人)

区分/年		2009	2010	2011
都市部	牛肉	2.38	2.53	2.77
	豚肉	20.50	20.73	20.63
	鶏肉	10.47	10.21	10.59
農村部	牛肉	0.56	0.63	0.98
	豚肉	13.96	14.40	14.42
	鶏肉	4.25	4.17	4.54

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：都市部は購入数量、農村部は消費数量

2 畜産の動向

(1) 養豚・豚肉産業

豚肉は、中国の食肉総生産量の3分の2を占めており、伝統的な食文化を形成する重要な畜産物である。近年、生産規模の拡大や飼養技術の発展などによって生産性が向上している。

FAOのデータによると、2011年の中国の豚肉生産量は世界第1位であり、第2位である米国の5倍弱、全世界の生産量の5割を占めている。

① 養豚の飼養動向

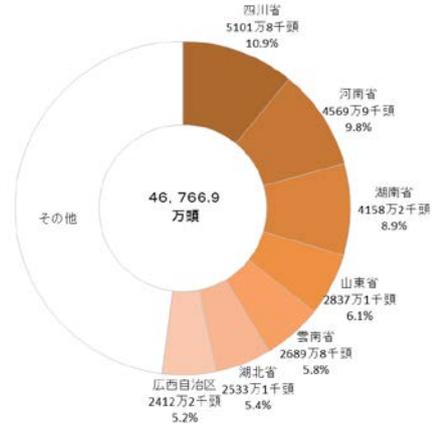
2007年以降、国内価格の反転により、農家の生産意欲が回復したことや、政府による繁殖母豚導入およびワクチン接種経費に対する補助などを背景に、前年に大きく減少した飼養頭数は、徐々に回復に向かった。2011年は、国内価格の高騰などを背景に、肥育豚の導入頭数が増加傾向にあったことから、飼養頭数は、前年比0.7%増の4億6767万頭となった(図2)。地域別に見ると、華北地域から華南地域、西南地域に位置する上位7省で全体の5割を超えている(図3-1)。また、出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が49頭以下の農場が全体の95%を占め、中国の養豚経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている(表5)。

図2 豚飼養頭数と豚肉生産量の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図3-1 地域別肉豚飼養割合 (2011年)



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

図3-2 地域別肉豚飼養頭数上位7省



表5 肉豚の出荷規模別農場戸数 (2011年)

(単位:千戸、%)

区分/規模	全体	1~49頭	50~99頭	100~499頭	500~999頭	1,000~2,999頭	3,000~4,999頭	5,000~9,999頭	10,000頭以上	50,000頭以上
戸数	57,874.3	55,129.5	1,724.7	782.3	157.0	58.2	12.2	6.3	3.9	0.2
割合	100.0%	95.3%	3.0%	1.4%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

資料：中国農業部「中国畜牧業年鑑」

② 豚肉の需給動向

豚肉生産は、国民所得の向上や人口増加に伴う需要拡大などを背景に増加傾向にあり、2011年の豚肉生産量は、前年並みの5053万1000トン(前年比0.4%減)となった(表6)。地域別に見ると、主要養豚地域である四川省のほか、河北省や広東省など、大消費地近郊に位置する中国中央部の上位7省で、中国の豚肉生産量の5割弱を占めた。

2011年の豚肉消費量は、前年比0.4%増の5104万5000トンとなった。その内訳を見ると、都市部の1人当たり豚肉年間消費量が、同0.5%減の20.63キログラムと減少したのに対し、農村部では同0.1%増の14.42キログラムとなったことから、2011年の消費量の増加は、農村部の消費増加によるところが大きかったものと推察される。

2011年の豚肉輸入量は、消費拡大を背景に同82.7%増の75万8000トンとなり、北京オリンピック開催による消費増加が見受けられた2008年を大幅に超える状況となった。背景としては、加工品向け需要を中心に、安価な輸入豚肉のニーズが高まっていることが考えられる。主な輸入相手先国は、輸入シェアの半分を占める米国のほか、デンマーク、カナダ、スペインなどとなっている。また、豚肉輸出量は、同12.2%減の24万4000トンとなった。主な輸出相手先国は、輸出シェアの8割を占める香港のほか、キルギスタン、マカオであった。

表6 豚肉需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
生産量	42,878	46,205	48,908	50,712	50,531
輸入量	198	437	150	415	758
輸出量	350	223	230	278	244
消費量	42,726	46,419	48,828	50,849	51,045

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」(生産量)およびUSDA「China, Livestock and Products Semi-annual」(2013年4月:輸入量および輸出量)

③ 豚肉の価格動向

豚肉卸売価格は、需要増加を背景に上昇基調にあり、2007年には前年比で5割高、2008年には、前々年の2倍となる1キログラム当たり20元(320円)を超えた。その後は、中国国内で大規模な疾病が発生しなかったことなどにより、出荷が安定的であったことから、価格も安定して推移した。しかし、2011年は、前半の出荷頭数の低迷や、穀物価格の上昇による生産コストの増加などを背景に、豚肉卸売価格は上昇傾向となった。国家発展開発委員会の発表価格では、同年6月の豚肉卸売価格は、前年同月比54.0%高の34.09元(545円)と急騰するなど、全ての月で前年を上回る水準で推移し、同年9月には、1キログラム当たり34.65元(554円)まで上昇した。その結果、2011年の豚肉卸売価格は、22.87元(366円)となった(表7)。

表7 豚肉価格の推移

(単位:元/キログラム)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
豚肉卸売価格	16.77	20.51	15.87	16.26	22.87

資料：中国農業部「中国農業発展報告」

注：各価格は豚後肢肉の卸売価格

(2) 酪農・乳業

中国の牛乳・乳製品は、国民所得の向上に伴う健康志向の高まりや食の多様化などを背景に消費拡大の傾向にあり、乳牛の増頭や乳製品輸入量の増加にもその傾向が現れている。しかし、中国の酪農は、乳牛の改良、飼料の確保、飼養管理技術の改善など、まだまだ課題は多い。また、乳業も、2008年の生乳にメラミンの混入事件にみられるように、品質管理の徹底やワールドチェーンなど流通体制の整備などに課題があるのが実情である。

なお、FAOのデータによると、2011年の中国の生乳生産量（牛のみ）は、米国、インドに次ぐ世界第3位に位置し、全世界に占める割合は6.0%となっている。

① 乳牛および生乳の生産動向

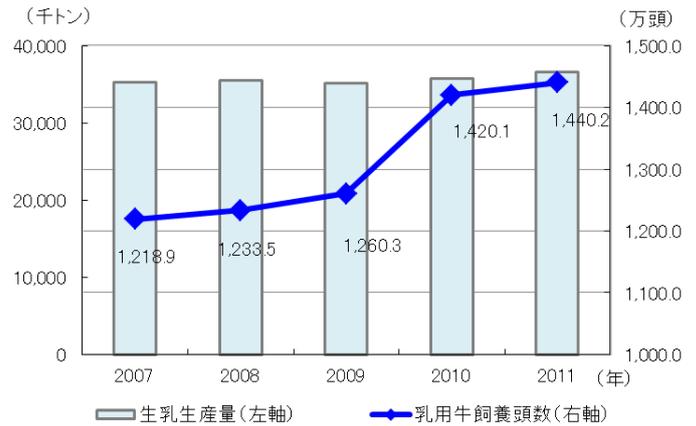
ア 飼養頭数

中国の乳牛は、おおむね3分の2程度がホルスタイン種およびその交雑牛などであるといわれている。主要な乳用品種は、黄牛雌牛とホルスタイン雄牛の交雑種に、さらにホルスタインの血統を累進交配して作出された中国黒白花牛（Chinese Black and White）と呼ばれる品種である（なお、中国では85年以降、ホルスタイン種の血統が87.5%以上のもの（＝ホルスタイン雄牛を三代以上交配したもの）を「中国ホルスタイン」と呼んでいる。）。

しかし、乳牛の改良や飼養管理技術などは先進国に比べて遅れていることや、乳肉兼用種も飼養されていることなどから、乳牛の生産性は低いものの、海外からのもと牛の導入などにより、1頭当たり年間平均生乳生産量は5400キログラム（2011年）と増加した。

乳牛の飼養頭数は、2010年にかなり大きく増加し、2011年は前年比1.4%増の1440万2000頭となった（図4）。地域別に見ると、華北・東北地方に位置する上位6省・自治区で全体の7割を占めている（図5-1）。また、出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が9頭以下農場が全体の9割を占め、中国における酪農経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている（表8）。

図4 乳牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料：中国乳業協会「中国乳業年鑑」（飼養頭数）
中国国家统计局「中国統計年鑑」（生乳生産量）

図5-1 地域別乳牛飼養割合（2011年）

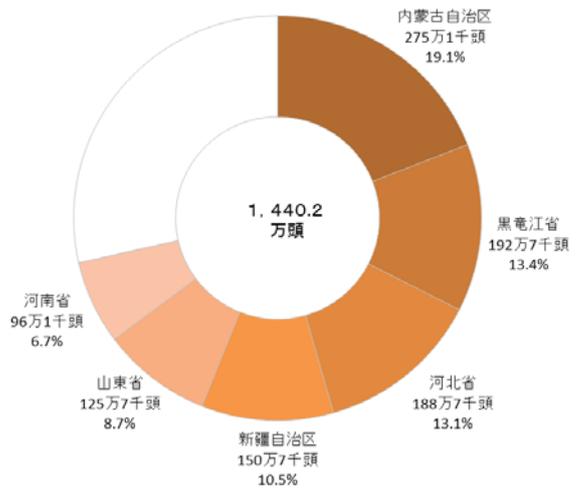


図5-2 地域別乳牛飼養頭数上位6省



表8 乳牛の出荷規模別農場戸数（2011年）

（単位：千戸、％）

区分／規模	全体	1～4頭	5～9頭	10～19頭	20～49頭	50～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1,000頭以上
戸数	2,198.5	1,651.8	320.7	137.3	57.6	19.1	5.3	3.6	2.1	1.0
割合	100.0%	75.1%	14.6%	6.2%	2.6%	0.9%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%

資料：中国農業部「中国畜牧業年鑑」

イ 生乳生産量

生乳生産量は、国民の健康志向の高まりや牛乳の栄養知識の普及などを受けて増加傾向にある。2011年は前年比2.3%増の3657万8000トンとなった(表9)。

表9 生乳需給の推移

（単位：千トン）

区分／年	2007	2008	2009	2010	2011
生産量	35,252	35,558	35,188	35,756	36,578
輸入量	2	4	7	9	30
輸出量	45	38	20	22	25
消費量	35,209	35,524	35,175	35,743	36,583

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」およびGTT社「Global Trade Atlas」

注：輸入量および輸出量は、HSコード0401.10および0401.20

ウ 地域別生乳生産動向

生乳は、東北部から華北、西北部などを中心に生産されている。2011年の主産地での牛乳生産量は、華北・東北地方に位置する上位5省・自治区で2485万7000トンと、中国の生乳生産量の7割弱を占めた。

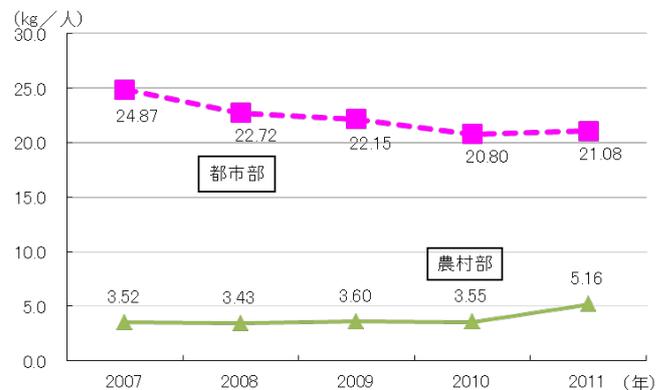
② 牛乳・乳製品の需給動向

2011年の1人当たり牛乳・乳製品年間消費量は、都市部で前年比1.4%増の21.1キログラム、農村部で同5.4%増の5.2キログラムとなった(図6)。都市部では、健康志向

の高まりからヨーグルトの消費が増加しており、これまで減少傾向にあった牛乳・乳製品の消費量が下げ止まったものと考えられる。一方、農村部では、前年比5割増となったが、これは、農村部でも牛乳・乳製品を消費する文化が徐々に浸透し始めていることが統計に現れてきたものと考えられる。これまでの都市部での消費量を踏まえると、農村部での消費も、引き続き増加の余地があると考えられることから、今後も農村部の消費が拡大していくことで、中国全体の牛乳・乳製品の消費は、拡大の可能性を秘めている。

注：上述の中国の都市部および農村部の1人当たり年間消費量は、一定数の家庭を抽出したアンケート調査により算出されている(全消費量を総人口で除して算出しているものではない)。

図6 1人当たり牛乳・乳製品の消費量の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：都市部の数値は、牛乳・粉乳・ヨーグルトの数値をそれぞれ1:7:1のウェイトで生乳換算した合計値

乳製品である全粉乳（還元乳やヨーグルト、アイスクリーム、焼き菓子などの原料として使用される）の需給について見ると、2011年の全粉乳生産量は、同6.8%増の110万トン、消費量は、同4.4%増の143万3000トンとそれぞれ増加し、輸入量は前年並みの32万トン（同1.8%減）となった（表10）。

乳業メーカーは、メラミン混入事件以後、国産原料を敬遠して、乳児用粉乳や高級ヨーグルトを中心に、輸入原料の使用を増やしてきた。このため、輸入原料は消費量の2割を占める状況にあり、消費者の健康志向や安全志向の高まりによって、今後も輸入量は、増加基調での推移が予測される。主な輸入相手先国は、FTA締結により関税削減の恩恵を受けたニュージーランドが9割強と圧倒的なシェアを占めている。

表10 全粉乳需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
生産量	1,150	1,120	977	1,030	1,100
輸入量	59	46	177	326	320
輸出量	72	62	10	3	9
消費量	1,137	954	1,064	1,373	1,433

資料：USDA「Dairy:World Markets and Trade」(2013年7月)

脱脂粉乳（主にアイスクリーム、ケーキおよび成人用粉ミルクなどの原料として使用される）は、2004年から2005年にかけて中国各地で発生した粉乳の安全性をめぐるさまざまな事件（偽ブランド、劣悪な品質の粉乳による事故や栄養障害、成分基準違反など）の影響により、消費は低迷した。その後、乳業メーカーは、品質向上などによる信頼回復に努めたことが奏功し、2008年、消費量は上昇に転じ、2011年には、同29.2%増の18万6000トンとなった（表11）。また、国内生産が安定して推移する中、旺盛な需要に呼応して輸入量は増加し、同46.1%増の13万トンと、消費

の7割を担う状況となっている。主な輸入相手先国は、ニュージーランドが5割強、続いて米国が2割弱となっている。

表11 脱脂粉乳需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
生産量	58	53	54	55	56
輸入量	40	55	70	89	130
輸出量	4	1	0	0	0
消費量	94	107	124	144	186

資料：USDA「Dairy:World Markets and Trade」(2013年7月)

(3) 肉用牛・牛肉産業

中国の牛肉は、従来、廃用した役牛を食用に供するにすぎなかったが、政府が黄牛種（水牛およびヤクを除く在来種。役肉兼用型）の品種改良を進めることで、肉質改善が進み、1990年代に入り、本格的な牛肉生産への取組みが始められた。

近年、経済成長に伴う所得向上を背景に、外食産業が発展し、国民が外食などで牛肉を食する機会が増加している。世界的に見ると、国民1人当たりの年間牛肉消費量は、都市部で2.77キログラム、農村部で0.98キログラム（中国統計年鑑）と、いまだ低い水準にあるものの、今後も中国経済の成長が見込まれることから、引き続き、増加傾向で推移していくものとみられる。出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が9頭以下の農場が全体の95%を占め（表12）、中国の肉牛経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている。2011年の肉用牛等の飼養頭数は、役牛や肉用牛などとして飼養されていた黄牛などの在来種の減少により、3.1%減の8924万4000頭と減少した（図7-1）。

なお、FAOのデータによると、2011年の中国の牛肉生産量は、米国、ブラジルに次ぐ世界第3位（米国の生産量の5割）に位置し、全世界の生産量の1割弱を占めた。

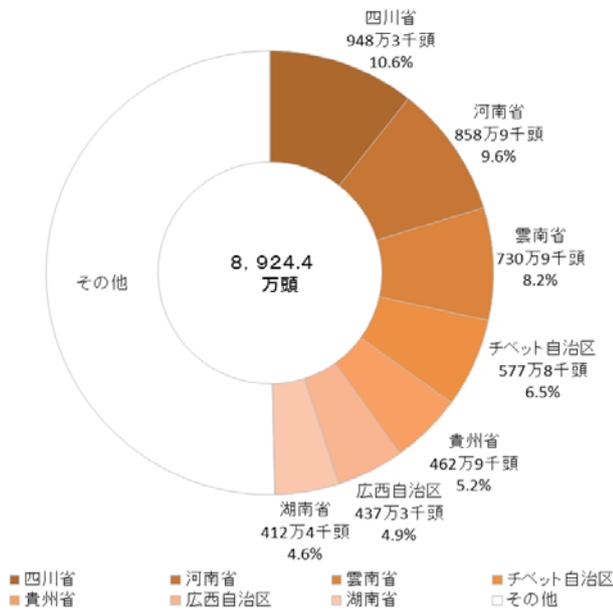
表12 肉用牛の出荷規模別農場戸数（2011年）

(単位:千戸、%)

区分/規模	全体	1~9頭	10~49頭	50~99頭	100~499頭	500~999頭	1000頭以上
戸数	13,094.9	12,527.6	452.7	86.8	23.6	3.3	0.9
割合	100.0%	95.7%	3.5%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%

資料：中国農業部「中国畜牧業年鑑」

図7-1 地域別肉用牛等飼養割合（2011年）



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

注：牛類全体の頭数から、乳牛の飼養頭数を除いた数

図7-2 地域別肉用牛飼養頭数上位7省



2011年の牛肉輸入量は、主要輸入先国である豪州での肉用牛の出荷頭数の減少による生体価格の上昇などを背景に、豪州産の輸入価格が上昇したことなどから、同30.0%減の2万8000トンとなった（表13）。主な輸入先国は、それぞれ輸入シェアの4割弱を占めた豪州とウルグアイ、ブラジル、ニュージーランドとなった。

牛肉卸売価格は、近年の国民所得向上に伴う需要の増加から上昇基調にあり、2011年は、33.42元（535円）となった（表14）。

表13 牛肉需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
生産量	6,134	6,132	6,355	6,531	6,475
輸入量	8	8	23	40	28
輸出量	81	58	38	51	55
消費量	6,061	6,082	6,340	6,520	6,448

資料：中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)及びUSDA「China, Livestock and Products Semi-annual」(2013年4月:輸入量及び輸出量)

表14 牛肉価格の推移

(単位:元/kg)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
牛肉卸売価格	19.77	28.06	29.09	29.76	33.42

資料：中国農業部「中国農業発展報告」

(4) 養鶏・鶏肉産業

中国の養鶏は、1970年代末の農政改革を契機として大きく発展し、豚肉に次ぐ食肉として消費されるようになった。最近では、中国人の嗜好に合う在来鶏（黄色種、いわゆる地鶏）やその特色を活かした在来鶏と輸入鶏との交配による品種改良鶏が生産の主流となり、消費者のニーズに合わせた生産が進められていること

から、今後、更なる生産・消費の増加が見込まれる。出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が1万羽未満の農場が全体の99%以上であり（表15）、中国の養鶏経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている。2011年の家禽の飼養羽数は、安価な蛋白源としての根強い需要を背景に、3.8%増の55億5400万羽と増加した（図8-1）。

なお、FAOのデータによると、2011年の中国の鶏肉生産量は、米国に次いで世界第2位（米国の生産量の7割）に位置し、全世界の生産量の1割強を占めている。

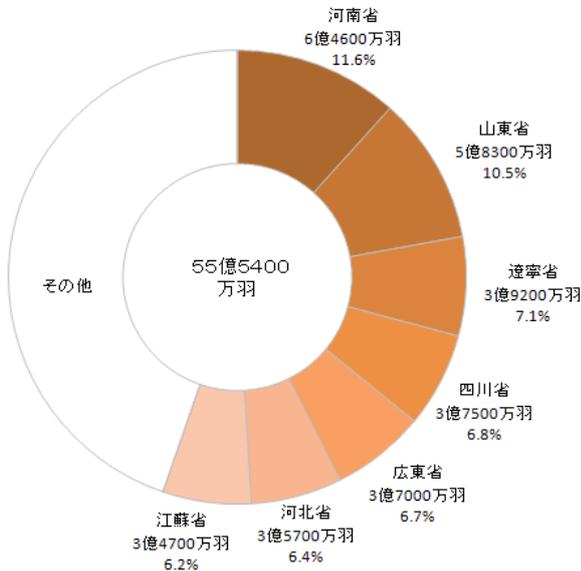
表15 家禽（肉用鶏）の出荷規模別農場戸数（2011年）

（単位：千戸、%）

区分／規模	全体	1～1,999羽	2,000～9,999羽	10,000～49,999羽	5万～99,999羽	10万～499,999羽	50万～999,999羽	100万羽以上
戸数	25,599.7	25,079.2	335.4	159.2	19.3	5.6	0.7	0.3
割合	100.0%	98.0%	1.3%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

資料：中国農業部「中国畜牧業年鑑」

図8-1 地域別家禽飼養割合（2011年）



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

図8-2 地域別家禽飼養羽数上位7省



鶏肉輸出は、鳥インフルエンザ、ニューカッスル病など家畜感染症の常在化や抗生物質の残留問題など、家畜衛生や飼養管理の問題に直面している。2002年には、動物用医薬品の残留を理由として、EU向けの中国産非加熱鶏肉の輸出が一時停止となり、2004年には、高病原性鳥インフルエンザの発生を理由として、日本も輸入の一時停止措置を講じ、現在に至っている。その後、中国の鶏肉輸出は、鶏肉調製品が中心になり、2008年と2009年に減少した輸出量は、2010年から復調し、2011年は、同11.6%増の42万3000トンとなった(表16)。主な輸出相手先国は日本、香港などとなっている。

鶏肉卸売価格は、より安価な蛋白源を求める消費層による需要増加によって上昇基調にあり、2011年は、14.27元(228円)となった(表17)。

表16 鶏肉需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
生産量	14,476	15,336	15,949	16,561	17,088
輸入量	482	399	401	286	238
輸出量	358	285	291	379	423
消費量	14,600	15,450	16,059	16,468	16,903

資料：中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)及びUSDA「China, Poultry and Products Semi-annual」(2013年4月:輸入量及び輸出量)
注：輸入量および輸出量には、鶏肉調製品を含む

表17 鶏肉価格の推移

(単位:元/kg)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
丸どり卸売価格	10.86	12.37	11.53	12.41	14.27

資料：中国農業部「中国農業発展報告」